

Kodak

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Centimetres

LICENSED PRODUCT

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Black



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



2843
2



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

酉
青
陽

利 5
2.843
2

利 5
2943
巻 2



尾陽名古屋

実永二石稔

幼田

繪山寮

糸川

先んくれ鼻子

ひまの華

形片を縄が

え方子費

素紙

臍中を餅れ本皮の

雲木

白き子



ろせん

其二

十天蘭
雲木

乙子日や 酒ぐ 難考後

一首傍ふら くれ階ゆ露川

是やは裁^{サンダ}削ぐ格^子子 東虎^下の^母 素流

其三

鶏頭山
素流

物志^ちや^城 浅黄子 光る^れ 草粥

妻子^あり^川を^とり^りや 麻漬子 笠 瓦木

雪子^こ小^股く^るも^れ み^とく^る心 露川

るや月付三際
去の陽

東芳

芒血^ゆく^せ子^トの^所初^日代
多^踏く^かの^所畑^れち^や先^一亭
表^ごと^子殿^目見^へて^笠子^且研

其二

全

お^し玉^八や^し 山^右後^や 喜^れ腹

難考^子向^あ三^中の^親 東芳
る^あゆ^れ思^まる^かる^か子^一亭

其三

全

賢^心代^れ証^掬子^き川^や 鏡^餅

子^乃日^れ哥^らの^川の^磨石^且研
長^閑歌^影八^瀬子^小京^も 東芳
し^り流^る心

陽春

夾始

華よあまも園子子ほくく庭寛

一とくく園子子ほくく庭寛

出智れ且那うく子也ゆん可樂

全

同

幼日彩あづも脛へんき脱に子々樂

畔く餅焼くかれ餅和夾始

蛭川の土用彼宿もくろり居く湖雀

全

同

相傳と秘子のもこさうぬね磔

競隊しりく骨れ杉神可樂

のくさハかほれ磔て夾始

三つ欠のみ

ふくや川月三葉

生た止

捨石

菖蒲代糸もこぎゆれる

鼓の華れきんれと松竹

藝れ聖子無紋の幕れ瀛濠

同

全

菖蒲や空子こさく松竹

え方子向形松竹

えくれ子ゆさ松竹

同

全

鏡蛇松竹

日ありもあうり瀛濠

約く来新音信松竹

あて子

謡初

瀛濠

四海浪靜治國晨

一千年名雲中表

蓬萊吸物口先寫

奉盃侍申住吉神

遊正月

十行

詩作れぬ中やそとく六筋葉

表き川やさわく八尋の板下孤干

梅の枝子連歌のもれ幼き代且栖

并の雲は兼さるる客ハ誹借師藤乃

赤く火れ碁盤伐葉采立枝

成虫の独ね茶やくのむりの月以水

かこり付に柴

路本がさし中イラキ雙六やかりり月 任言

か何しナ表や大師れ遊ゆ一風

空川や平等利益 繩簾 林月

表や昔針打葉せん涼氏の伝 表人

橙や鞠子蹴るんか小人一ま 夾始

立華んかかかるともやか湖在

も子あつる長閑くゆや枕川 楚山

正月れ上と氣げ元表茶の湯代 於石

穴多子片目あつる中ハああ以 千夾

門中子あつるぬらり代とれん 世通

數あふるり中程とせん 可樂

浄なまれ三重く昇和斗旭

え且これ中ハ只丸くしや斗旭斗の神の本をいし

すりこふ子角や初具のりり

豆腐はく乳と餅の若火一立 虫路

出習れ上戸どど一組子 随柳

千三 全

お出や月神日中海に三青叟

蛸中々虫トやハ洞れえト先 斗旭

濁り海海れちあハ是れん 虫路

千三 全

先キ法法振ル神日乃西字菜

山と山いふ初雲れ蓬菜 随柳

仙人とんくれ斗旭如サ

ふこや月付の菜

立かた

簾子

初日新ま一初室子ま女代ま

えりはえりく富士れち雲

菜且 推之

御慶 鬚い字

矢はくし先蛇子か繩 雲鏡

いらくと砂浅照は月れ 露川か

天日其一 都研

ま川ぬくひまかまやまの只

蓬菜くくく寛大臣朝在

斤荷すは腰れ刀も 菘乃のや子

ろく

天日其二

水也

鶴れ即保姫君は昼刻れ
お免ころこふがひんの正月 枝惠
小信れ一口もお免ぶく 却柳

天日其三

十竹

相撲ころれ尾く出それ谷の壇
官位仕あやろくそん草以 里外
神楽并客や極以可ん 丹多

天日其四

四山事 藤乃

さう虫とそん内惠も我く心
そられ新若大ハ草う次山 仙市
そくのり子黒股紅攻 ^{スノミタ} 十竹
ちあぢまの

かこや川付六柴

天日其五

朝霞

門作れ福や子里れ新あし
あらん身と息、正月れ張 巴流
又六の影ハも仰れ臍まじ 名也

天日其六

井子振筈あり松末案あり
舟連中子余うたふあふ
又一真 枝惠

から粟れ紐今かこし 名終
十れ字小紋付ころんかゆ 丹水
息杖子息入るく日や承くん 巴流

天日其七

里外

禪哉いぞやこころれ丸始
耳子常 鼻子志く梅 藤仍
あころ子馬れとこらんう子 仙市
蠅もが

たつた

天日其八

仙市

くわらわく小刻も抄く意以寄柳
めんがうかちくろき音後十竹
我畑れく何う法迫る系抄小異外

天日其九

巴流

業かて使や未落うりれ部香汁
依四をれれれんう公候長用事多也
若草れり子わんん
くわくせて 枝恵

天日其十

丹水

万葉れんわちくおすて身以
何いふてく寸虚空安楽 都柳
船ハ行るハ陸く 陽巻子 彩雀

ふにや七葉

龍且

世通

加よびこ子頬摺すれれ男
とく宝川ハわくく切 楚山
時分柳何とれ四葉れ 表あ子 干夾

又

全

おもいぬれ表や柳影アイウエラ
ゆそ茶子引ふくく白 世通
唱揚る兼ハあ子染やん 楚山

又

全

表く小看板出きや松踏
さあハおソれ新葉子一立干夾
表の父入るま片人々雪踏成 中通
おろきれく

三巻

ゆりきりつ羽後中やと新井

水

松川とていりくまは波ゆ

赤乳禪尺寸松東風子林月

同

同

トビヒヨロ 鷲嶋麓ハイヤウ小乃菜

研管中松大れ蕾が先

梅う香も泥田持多松

同

同

作らぬう泊り本さる

町れ風呂ふ屋ハカあ

吐け反れまふきふハ

長閑あり

ふこや月付八条

あまの

鴉渡子れ紅質中

枕音能引れはく九万葉

夕色あ草刈彭子月出く一風

其二

全

恵白^{あま}腮く配る中

手振り淋し交舞松の虫

梅田子梅れおいも

其三

全

福りや大忌舞れ寸づり舞

おあつ彭子先笑を先一風

新茶屋の流め

無先きく

立枝

幼陽 枝残

棘や勤むくえを家初日彩
去れ梨子浦四月の如 字中
去日父介及枝遊山れと昭子 ヶ口

二 月

くれの世は鼻毛もとも子花の枝
三 九益れ靴葵のく久 枝残
無何居長閑不根と中 字中

三 月

明の初子門れ金具も委まきー
魏~~~~~とひのる 箇口
洗をれ少りいふふい 階 枝残

ふとや川付九条 江舟
久且

去子きく川畔や柔るれ松踏
そく町くく一ひ玉れ丸 林鏡
こよあせく情も本綿も 友次
藪入子

其三 全

明く委くれ初相れせとあり
同子アア先 楳日子東如 江舟
百皮も在処れ及ハ長閑めて 杖鏡

其三 全

夕部ふぶ松れ世夫やくれあ
鼻れ大きれ人のひ枝 友次
怒く山日や楳のこきく川と 江舟
ヤらん

試筆表

如瓶

其東筆城ありし此第や神の梅

船日かりしも子ごさか正月千里

雪子對面せしと下詠 んさく 同

右ふらりと呼ぶ 雪院 如瓶

ありぬ子ぬる世やうは流れ流日

續きやくとりくは丁令 里

え且 面八百

勇和

小便子出く船从れしそよら

虚言れもあは元新様を十月

西隣来しぬりもわく子吐山

嵐ふぢれハ猶れ 乱曲 汀竹

ふる川付十葉

法師匠れぬる子さあ社村有 月

茶をうまき だ古れ用ん 和

猶入候しんこんしと朝れ 竹

去帝家こや子 柿れ紫 山

二云

勇和

難あり雪を焚つりや茶粥

よごれと鼻子窓れ梅くさる

陽光れぬ友子むやりと松入く

和鶴

吸海軒 吐山

去る川や侍鳥鴨子云家忌部

上は子ぬのゆは道葉

系中ぬいとのびく子 草ゆき

白从

丁月

穂ききくく塵子あしれ

伸ら

雲はくく氣子折ふうと矢、

去前れ一も世比のくく、

初虫

汀外

曆下目子尺子や勢勢

盤子似きと子了其の紋、

長用少子日ハ小芝居も

世子如く

え日付付

推之

明子依にこそと此裏志

守護す家や庭もか上も

小度京 景芳

了業や古く好ちり

初縁 梓月

ふる川付上祭

独心三杓

芦江

きくくハハハ此要や去勢り

目出こ様子 國れく依凡、

舞踊れあのり垂子

ありく

え日付付

峯雲

新の葉ハ鼓り滝下くく拍

安ん座や我も飛上くね勢 玄凡

祖父様といくれて笑へ

くくれ勢

也風

葉上三杓

牛牧

鞠まのくくや口角水ゆり葉

くくくく子も拍小破十弓、

若草子とれれ世牛も

みれくく

所蔵

之且

涼竹

雲よりや世へ人あらし小袖曾我

咲梅枝群ハセし杉小袖日尺 右松

初陽三杓

沢水

上下れ流打際中ま川鏡

長太う孫と名乗る万葉

多んどんふあつても水子ハ

元日月付

のこらて

山ハ山海海多架知口彩

于声

常盤本れ門子あしや初鏡若万声

初来肌れそまや社母ハ

月二男
徹心

うさぎの少袖車ハ川

去のあし
かたい

うれの妻

ふる初二葉

白鼓く万葉集と移小也 春又

山野れ雪志あれし 誰童

き妻れか子や葦葉の火ん 熊舩

松れ葉の青くや子代れ妻 千里

鶴もさしことく人形れり 稀白

うさぎいお浅くハく乳の妻 松女

菜み且

不識

蓬菜様海光

初日

榎月

大忌も昆沙つえハ西き子れ

新黄れ脂の板と誰小

白梅れ八重九重とませこ葉子

三妻三抄

可静

封し月れ解く其子也其の妻

あり八月こられ梅の香、

洗雲れ日まりよりの

階上り

初陽

アタ 孫峯

〇いおふあ子解きり

終小把了れた朝の西月、

常ハこれれ藪は

定宿子

え且

春水

先起く我ハ併成口す有

見る子解かしくれ雲月

のどき子みかぬかて其れ

旅次

ふる川付十三巻

初陽

東推

わく玉がくくく理と階く庵白

妻とくもくく酒れ子子素宛

取八月全六日れあはるるの

云判く空ハ糟も結物

古皮筆杖れ見ぬとかなはは

あけくも師をいふも

〇始

水枝

か舟海や雲子年へ交ぬれ其

十里見後身揚窓れ東肌、

日ハ承キ鶴白踏れ音つれ子、

孟春表

七春

正月城下寸里起きや露れぬ

鼻へ秋葉ハ喰ぬ方への 露川

畑并れ辛苦々あれハ梨 ありき 東推

板れ木の陰子涼風の涌 妻

哥一首讀ちたや通さぬ 因れ 全

草刈られゆれく とふ 折

え且

也系

杉形子あ桐は子やつれ去

一万石と尺中流流雲ハ

聖れ後サ三里四方 あ人

ふさ川付十日祭

夏旦表

一香

蕨園や子子嚙成かああう祭

雲子去是れいさな能キ去 東推

梅はくくく い 子 夾

庭 と 掛 て 露

此 は け る 空 も 碁 を 振 鏡 月 月

程 は 入 る や れ 客 人 露川

鶴旦

独ト

松鶴り彼の夕影れ宿の原

雀らうらふ蓬菜れ葉ハ

此れ尾申るりと忘れ あ く 先 く

歳旦表八句

且栖

雪れほきりかきしりよの世

餅子その菜のそれハそ苦孤干

百疋も令れおむおハ長調し 露川

月毛のるさるのさるり也凡

と日枝よりと清子か露 内白 東推

砂子桔梗れあけりと咲 拙

味造く本臭子テ紫飯ふあ 干

大羽えんとハ小豆か下 粧

え且 孤干

わの奥子くれやあらん初日の出

咲梅枝初日や後雪障子丸 逸峰 絵

おる川付すも菜

東員法部

古慶

魯九

腕立も前立もふおはさよが

とく日造くくは延川 于鼻

東成これ吹くく舞の味も 御心

古慶

全

判立く三の師たるもはれよが

唐々蕪れはるハ角幸かき也 魯九

砂子雪かきはらる子 干鼻

信別

山慶

于鼻

豆腐屋もろろ等連くはる

老子根を免くくはる

は柴れぬ名浦寄垂れ子魯丸

川付

あ天

あの松中へ奉ふさあち〜 鏡蛇

あゝ玉や丸柿ハ棒子蕎麥餅少云

○程やひま心雨もつて糸流林下

初日彩余れ木ハあれと柳う奈如朴

采音 寺子松 愁心け〜 依如

あゝ風はあはせけくはる 嘯也

錦織く都

ふとヤ川付十六葉

初閉

是柳

後晴津れ折自き〜 中門の松

〜 是れ雲面白〜 初小袖 鷗小

蝶の青や室子阿呼れ初日彩 窓竹

つ〜あひも么ハ尽〜 門の松 濁水

門表候い〜いろはれいの字以 加表林

子程や肩少子抱子も 綺羅栲 醉光

采音月三お

國推

じん〜と師走れぬや〜

竹れ林多〜 袖煤掃 鷗小

あゝ山の山東南子あ吐〜 是柳

其二

ろせん

鬼の子も 逐て年々 是柳

雲踏くふまん 雲のくく 園推

鏡実事ハハ子及ハ音見 是日て 西小

共三

同

真篇子雲う旁例くらやの音白

初ハ師之れ 鼻子 際々々 是柳

通り日子 鞠々 此 是日て 是柳

山止三お

左本

裏白やくれの先子山家より

急反 難者子いふわい

苜ゆ子百間より ちあせ

此嶽之部

重子付十七条

右推

何ゆつて 雲れ

ふくく 雲れ

裏公や 修鶴れ

ふゆれ 松げ家並子 初日 露寒

蓮葉や 藤子 餅と 扱与

糸紐貫や 是れ 調子 是れ 雲朝

黒瀬之郷

三お独吐

岑蛙

九つ 卯の夜 天神や 笑そ見

且那れ 毎々ハ 是れ 正月

常乃 餅くと思ハ 味ゆ 扱く

同

菓子小袖

里魁

三味線あし子御家約

首畑れ中子御家

同

蓮葉やちりほり三子節

音石

〜〜〜れり子失針

酒さるれ華枝もい子

同

かゆん

研雲

さゆれまののあや山乃松

〜〜〜りんはれり子梅

水よりの人よみは

火上り

ふり付大紫

同

松吟

門松れ子よハ華子胡蝶

りの猿そりりりりりりりり

物れ月進付形もあは

葉止

花友

石松やト合々居蕨仲は

〜〜〜りり

子早れ申もあはり也

兼山之卿

え且

逸竹

口ゆ〜〜りりりりりりりり

一子伝〜〜りりりりりりりり

江月

ろん

二子山と目もとよみやうし梅口晴

三子海はしく赤も流れる川也

四子世子徳子徳とせ松れむ 甲由

五子山もあま波や子代の女 野山

六子骨病も無疔子時代の虫 里留

七子海もあま流るる方柳 飯帆

八子海もあま流るる貴川 貴川 珍庭

九子川もあま流るる上も川虫 馳後

十子川もあま流るる代川 代川 菰池

併搦れ進やあま流るる虫 赤均

上麻生之卿

兼且

分り川付十九葉

仲空れ宿もえ古や山は奥 海毛

書知や日なり福れき文字 澄永

兼且

松の葉は菴子も川や大晦日 夕遊

一休もあま流るる川也のそり 海毛

常作は罪れ報ややれそり 澄永

郊之卿

兼且

兼且

中世は春もあま流るる川也

志白れ春れ東は波もあま流るる

さざりしあま流るる川也 長閑

知多之部

え且

成岩邑
柵水

そまの塩梅見ゆや男

一番口子梅庵表先人茶土

遠六牧角丸苗葉の
跡蟬

同

全

破ナ弓丸数
子方限若

東風子障子けき川
室川 柵

初日待あふ井ゆ
岩土

あこや川付北柴

同

全

ゆきれ苗芽生おきり初日紅

おのけおいかゆ
跡蟬

長閑さハニきり月
柵水

三巻

成岩邑
河星

わづむれ火厨たうそゆやまの歌

屠蘇も間酒もあふ
如測

常も筒一さふ子さつり
梅竜

其二

同

身も若しきう拾も若し
如測

福ハニきれと招く
河星

戸成子障子も入
如測

うきん

共三

如則

昔習く新わたりや録

の川こと笑ふる采みの時宜梅抄

掛刺も乾く二月、
のこ所ん 河星

〜れそ

河星

片のみ口平あ〜師を此梅のこれ

テ舞れ塩梅家〜
まのこれ如例

宮へ垢離子足歩く泣や
氷成 梅竜

子魚考

坂井 白永

上塗や家もね束る指く〜笑

鏡子ふ〜ぬ門此根彦本

子魚と志こ引き〜子旭鳴

ぶこや川付サ一朱

王妻

大谷 巴川

雪も子里羽の夢お日此

門松きふきお 浄雪、

孟子流れあやお
東風吹く、

立妻

如本屋 雲客

門松れ子の矢先やあり車

ふやわ〜れと取梅れ〜

蟻の子子蛇と胡蝶も
つれま〜

笠寺之郊

和日

洪高

吾躬ハいづくともす知日

此簾もわくまの簾もわくま 柏柯

長閑多か海ハ思わば

養一七 曾由

共二

柏柯

乞くは神楽子かか知日

随分能も信ふわくま 曾由

長い世子行くと出れ 赤一 洪高

共三

曾由

月乃く恵は世もさか知日

くこ掛さか家れ以 玉洪高

多き月付才二葉

くくく六木那板子 柏柯

かこれ音

曾由

餅実やうくと母も此音く

古筆よいとまこと出スや大晦日 洪高

栗末 表

柏柯

正月戌遠む子来世やあめ梅

あられあり込重袋れ餅 曾由

入口つら出吾牛浅 東推

いろはもそこ子拾くわりの洪高

此村がわりの夜さうれ 露川

武士ととあり子鶴あく 柏柯

西夷諸邦

三銃

竹鼻
赤臺

黒島那ーとや上座子銃炭

而久ーき尉殿れとん 甫堂

一構は六余歩子 由あまをく如桂

同

全

不海子とて聖を成時代の銃炭

百ありふれ礼日ひん 土塵

身具屋う仕出ーと店ハ 甫堂

わん子

ふとや川舟廿三架

同

全

きんくハ上座のれ子銃炭

室とともん度とえ日れ照 如桂

岡あかーとハむの 素臺

えり川付 李残

まどやとつてる上れあ火

しーとや名字と名と体 包紙 落白

茶房用キ内儀ハ是れ錠子形 柏五

二階一も下が呼ばる子とれ 如翠

此京れ豊野又今まの 狐尻 疎竹

染子白

かー波れき白やきーい白 素臺

あ海と

名古屋菜首

東推

智恵は輪のむく山にけぬ師之代
ぬえりてせやうに鹽の湯や菜夾始
ゆくと人やおいそ草鞋は緒 香水

煤納

煤掃や塵のふきくふ火箸 且柶
煤掃や阿弥院も椽子んこか 無通
煤掃や古金柳りくく 楚山
煤掃や雪子もかも 踏れ蓋 干夾
煤掃へ素性くまーと古尺 吐山
煤掃子せいがい樂れ仁助 如瓶
煤掃や構れ菽れ筈方限 千里

多る月付女屋菜

腰ゆりは流りく掃之師之代 勇和
きくく牛子あやれく 首 螢路
輪の輪は志気進歩師之代 随柳
傾海は草履も古ーの音 汀竹
行くれ目くも疎く作れ 丁月
名月以思出人やく 忌重 於石
茶漬之君子志く師之代 楚春

餅搗

餅実れ巻迄くく 白屋青 景芳
餅実や雪も山吹くか 江舟
餅実以調子子掛は鼓く 林鏡
餅実や岩破れ 布衣の子 友次

煤掃ヤ

やぶれ中の 松白も

人まもや川に異なる月夜に松朱松

池あり雲引く角當鳴子く推之

多可羅や四重ら志かれ以酒飲

因如行

鳴子山子身おしむ川と

本吟も 十竹

山本川や我も山く流うも

如能

了階ハ丸も吹バれ柵くは

京吾仲

苔ひし子尾のくくくふぬ此

沼井氏此通

當れ餅く子鳴く中あゝ桑

湖在

苺子離もくくみくんち子立

斗旭

町むく川横子んか臨あ憎成

三册白雪

初雪れユま子入ん古守守

加賀地妖

あや川竹十五葉

足よハくくくくくくくくくく 素沈

當れあ子数くれ蕨のくく 夾始

鞆かや子桑川く鞆や涼くれ 除風

竹れ子子流くく摘く山掛成 東推

とくりこまく腋われどの星サ成 露川

麻糸れ仕るのそ川く 其夜夜 蟻角

あれく指下く来れかと熟柿成 子夾

掛れ軸くくくくくくくく 涼風 嘯風

多柵中小町くくくく 吾れ骨 江鶴

去れれらくく流く中くくく 笠山

あ鼻れれ中子海く中定念仏 亀洞

了由春處く集くく 勇和

くくくくくく 川の

うしろの山 孤子

走り下り雪れくらくやの市

茶搦れ宵中子苔やの市斗旭

わびくきふふ人の我らみの市 湖雀

あ鼻もつまんく愛ほの市 素人

寸白はゆふく度ルやの市 水

その中子信も愛よくれり 伝言

一人くそい季い二人くれり 一風

はくくれりや娘も拂もの 林月

やれり賢人らくや草鞋愛 立枝

少くれり布出子んせふ欲然 右松

鯉賣やもとくひの市 可楽

あまや月付廿六柴

潜上子開くかばやくれり 雨歌

かハ杉家も幸ありく 仕也 干声

はくくれりや人れらの陰むらこ 一秀

家子あり交お 梅さかるとわりハ市

かくくれりやあ仙りハ福也神 瀛漫

はくくれりや踊るま門く二王立 涼竹

これぞ社川れ流くれり 孫峰

その季子侯

その季也や蚤禪れ目くくら 仙市

その季いれ股や松の具れ株 里外

その季いれわくぬの山や鎌入も 枝惠

その季いりく井陰囊は 十竹

うしろ

その季にわたり天童子より盛水也

その季にわたり血池の苦試のれ 藤乃

その季にわたり魚子御子のる 朝雀

その季にわたり宇治の茶つれ 津田氏 都柳

脾胃強ふよき素たぐの重い 将月

見隊人もよ子隔るやその季に 徹石

行く一城下り坂也きこわ 推之

わろそつと塩もかき妻の 赤坂

一〇城無れ焼火とそ月けり 露川

古つれ 師走子わわ

能く耳はせせくられよ ま考

これぞ白

かろく



文華堂
右松



